

# たぐすい

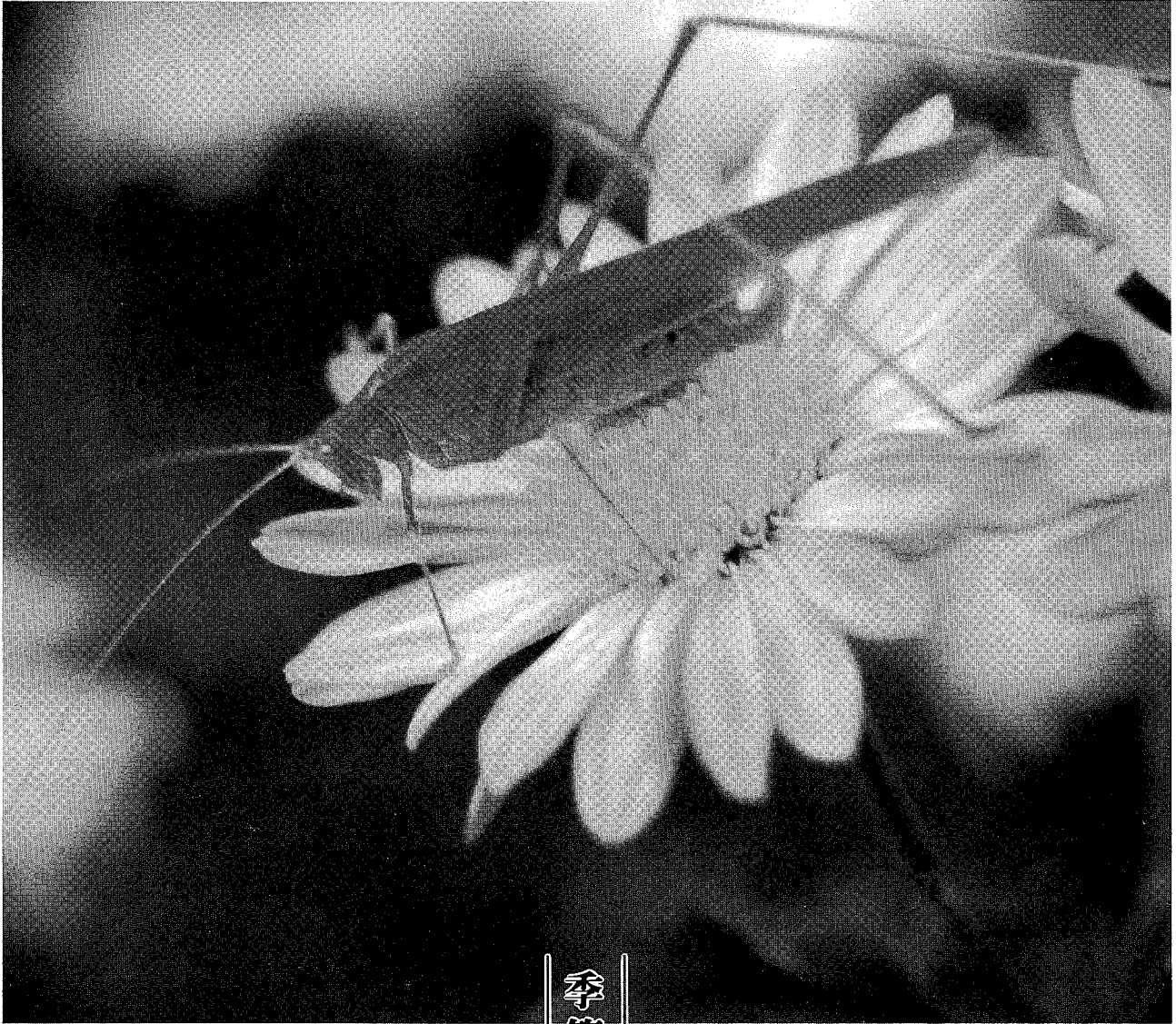
9

SEPTEMBER  
1996



TOPICS 第2回兵庫県漁協  
青壮年婦人のつどい開催

No.479



## 季節の香

かおり

### 【ウマオイ／馬追虫】

大きな跳躍のできる長いうしろ足と、体の倍ほどの長くて細い触覚がキリギリス科の特徴。全体に緑色をしているため草叢で見つけるのは甚だ難しい。

秋に鳴く虫で、暗闇を好むのはコオロギの仲間。キリギリス類は明るい日中に鳴き交わす。夏の終わり、クズの繁みで見つけたウマオイが畑の花上へピョーンと高跳びした。

昔、縁日に虫籠を一杯つり下げた「虫売」の姿があった。スズムシ・マツムシに混じってキリギリスもいた。膾のきしる音に似ていると「キリギリス船」という言葉もあったが、虫の声を愉しむ風趣と共に過去のものとなって久しい。

虫の声に季を感じて詩が生まれる。『虫が鳴いている。いま鳴いておかなければ、もう駄目だというふうに鳴いている。しぜんと涙をさそはれる／八木重吉』  
日本の音として残したいもの：

# COLUMN

◆コレクター（蒐集家）と呼ばれる人は多い。切手をあつめる。人形をあつめる。ビンや土器も対象になる。人はナゼものを集めるのだらうか。貝殻のコレクションでは国立科学博物館の河村コレクション、西宮の菊池貝類研究所／鳥羽の寺町コレクションが名高い。特に宝貝のテラマチャカラやニッポンダカラは希少だから、そうお目にかかれない。南アフリカで釣った魚の胃袋から見つかった「リュウグウタカラガイ」が一万ドルで取引された。幻の貝と呼ばれる素晴らしい逸品が鳥羽水族館で見

られる。貝殻は貨幣だった事もあり、こころ豊かになり、また人工で造り出せない自然美は眼を保養してくれる。◆ある夏、岐阜の名和昆虫館に立寄った。古色然とした建物の中に、素晴らしい標本がきれいに整理され、当時は夢中になっていたチョウ類に魅せられた。切手の図案になつた、オオムラサキは見えていて飽きなかった。燐粉が微妙に妖しい光りを放っている。蝶を切手に描いたものは世界で五百種ほどあり、百七十余の国が採用している。蝶が生活の中にかかわっており関心をもつて見ていることが分る。北朝鮮でヒメギフチョウを図案に

した切手を発行したが、国交が無いため大手の切手業者でも入手が困難という。国と国の交際がこんな所にも影響している。マニアにとっては残念なことだろ。◆珍品蒐集はコレクターの最も望むところだ。誰も手にしたことがない珍しい逸品こそ、マニアは情熱を燃やし犯罪を冒しても辞さないものである。芦屋に、江戸期の「矢立て」を集めた博物館がある。どれも立派なもの許りで、じっくり見学すると製作者の熱意がジワリと伝わってくる。執着をもって蒐集に努めるのも人生の楽しみ（遊方子）の一つであろう。

## 表紙写真募集

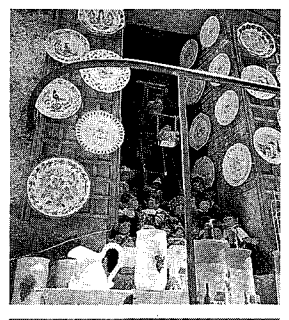
アマチュアの方で、ご自慢の写真がございましたら、左のように明記して、お送り下さい。写真は必ずご返却いたします。①写真撮影場所②氏名（フリガナ）③郵便番号・住所④自宅電話番号（市外局番号も）⑤年齢・職業  
送り先  
千六五二 神戸市兵庫区中之島二丁目  
二一 県立水産会館  
兵庫県漁業協同組合連合会  
指導部指導課「拓水」係宛

# 拓水 SEPTEMBER CONTENTS

季節の香	2
ウマオイ／馬追虫	
COLUMN	3
蒐集の愉しみ	
TOPICS	4
第18回兵庫県漁青連会長杯争奪 ソフトボール大会開催 第2回「兵庫県漁協青壮年婦人のつどい」 を開催	
ズーム	6
第17回近畿青年洋上大学に参加して －思い出の13日間－	
リレー随筆	7
『想うまま』 名前について考える	
水試ノート	8
クルマエビの放流効果について	
漁海況情報	9
海区漁業調整だより	
栽培漁業センターです	10
普及員だより	
川と海を行き来する魚たち	
旬の美味しい話	11
たちうおの野菜巻き天ぷら	
兵庫JCC通信	
食と農を考えるシンポジウム、 消費者と生産者との現地交流会開催 「ヒロシマ虹のひろば」に全国の生協から 約2,000人が集う	
こちら海ですロケだより	
但馬の水産加工 ～兵庫県・香住町・浜坂町 他より～	

## 今月の表紙

### フォトギャラリー



表紙写真  
西澤 範子さん  
〈県漁連〉

## フォト歳時記

アルルの近く（南フランスにて）  
エクス・アン・プロヴァンスはセザンヌが生まれ、晩年まで住んだ。アルルとサン・レミはゴッホに由縁の地。アウイヨンにはフランス教皇庁があった。日本人に人気が高く大賑わいの観光地。可愛いらしく、ぎっしり並んだ人形が笑いかけ、あるいは溶かし込んでいる。血に描かれたシャレた絵がキラリと光って、旅行者の目をとめる。  
ゴッホの跳ね橋は再現された観光用だといふが、それもまた良し。この地を歩いた著名な絵描きが偲ばれる。青く澄んだ空に、並木の緑が清々しく映える。親しい友と出掛けた旅で、芸術家になつたような…

# TOPICS

## 第十八回 兵庫県漁青連会長杯争奪 ソフトボール大会開催



始球式される水試の土岐部長

去る八月十七日(土) 明石海浜公園運動場において、第十八回県漁青連会長杯争奪ソフトボール大会を開催しました。今年は摂播地区六チーム、淡路地区二チーム、但馬地区二チームの参加により賑やかな大会となりました。開会にあたり星尾県漁青連会長が主催者挨拶を行った後、来賓の県立水産試験場土岐普及部長、明石市農水産課中野係長、県漁連日高参事より各々ご挨拶を戴きました。次に前年度優勝の東二見漁協青壮年部チームからの優勝旗返還、続いて選手宣誓を行い、土岐普及部長の始球式により試合に移りました。試合はリーグ方式とトーナメント方式を組み合わせ、予選リーグ戦で一位になった三チ



特別賞受賞の浜坂町チーム池田さん

ムと各リーグ二位のチームから抽選で一チームを選出する方法により、四チームで決勝トーナメントを争い、順位を競うこととしました。炎天のもとに、その暑さも吹っ飛ばすほどの白熱した試合が展開され、決勝戦では明石浦チームと津名連合Bチームの対戦となり、好プレー続出による激戦の末に八対三で明石浦チームが優勝旗を手にしました。

また、今年は浜坂町チームに女性選手の初参加があり、その好プレーに対戦相手からも「頑張ってる」と声がかぶるなど、異例のハッスルぶりが見られました。

日頃は、日本海・瀬戸内海と違った漁場で漁を競う若者らが、この日はソフトボールを通じて、お互いの技を競い合うことで、より深い親睦が得られ意義ある大会となりました。表彰された方々は次のとおり。

優勝/明石浦チーム、準優勝/津名連合Bチーム、三位/浜坂町チーム  
最優秀選手賞/佐野成則さん(明石浦チ

## 第二回 「兵庫県漁協青壮年婦人の つどい」を開催

△  
敢闘賞/佐名川剛章さん(津名Bチーム)  
特別賞/池田朋未さん(浜坂町チーム)

### ★漁協青壮年と漁協婦人の交流の場

去る八月二十四日(土)神戸市文化ホール(シーガルホール)において、県漁青連/県漁婦連主催による、第二回「兵庫県漁協青壮年婦人のつどい」が、県下漁協青壮年/婦人部員等、約二百七十名の参加のもとに開催されました。この「つどい」は青壮年部と婦人部の親睦と相互交流を図ることを目的に行うもので、これまでから「漁村青壮年婦人活動実績発表大会」を行い相互に交流はあったものの、もっと楽しい趣きあるものを導入したいという多数の希望から実現したものであり、今年で第二回目になります。まず開会にあたり、星尾県漁青連会長と大里県漁婦連会長が挨拶を行った後、来賓の藤原県農林水産部長、小川県漁連会長、木下信漁連会長から各々ご祝辞をいただきました。プログラムは午前中に新規漁業就業者紹介、海の子作文の朗読、ビデオ上映があり、午後は記念講演、自慢大会と盛り沢山の内容となっています。今期の新規漁業就業者五十名の代表として、南淡漁協の西本・亀田両氏へ、星尾会長から「励ましの言葉」が贈られました。頼もしい後継者



海の子作文の朗読（港中の三木君）

らの前途に期待したいものです。続いて朗読された作文は、第十七回海の子作文コンクールで知事賞を受けた内容のもので、作者である豊岡市立港中学校の三木秀祐くんの元気一杯の朗読に、会場から大きな拍手があがりました。ビデオ上映は「自然と共生する漁業」と「女性・豊かな海と魚」の二本。美しい画像と分かり易い内容により、今後の漁業のあり方について等、良い勉強になりました。

★記念講演と自慢大会

午後からの記念講演は、元NHKアナウンサー笹谷清子氏によるもので、「ことばと心」というテーマにより行われました。日常何げなく交わしている言葉に、心を傷つけられたという話しや他人に感動される話し方、また美しい日本語について等、「ことばに係わる様々な事例の例を引いて平易に解説いただきました。



笹谷氏の記念講演「ことばと心」

た。社会人として基本的に大切なことを学んだ思いがしました。小憩のあと「つどい」のハイライトである自慢大会が始まりました。婦人部七十名による舞踊「日本の夏（よみ）」で華やかに幕開けされ、舞台も鮮やかな紅色の照明に変わりました。青壮年部/婦人部から選ばれた二十組の、のど自慢・踊り自慢の面々が、次々と歌や踊りを披露して大いに楽しませてくれました。日頃の練習成果を遺憾なく発揮されて、審査員の方々も甲乙つけ難く困惑されたのではないかと思うほどでした。表彰式では場内から盛大に拍手があがり有意義な一日の締めくくりとなりました。以下は受賞の皆さん方です。（敬称略）

優秀賞/香住町漁協（吉岡勝行）・浜坂漁協（門脇良子）・神戸市漁協（婦人部十名）・うまいもんで賞/津居山漁協（前場清・浜本麻理）・香住町漁協（伊藤紀子）・特別賞/高砂漁協



神戸市漁協婦人部（10名）の踊り

（婦人部三名）・サバよんだで賞/東田良町漁協（須賀満子）・ハッスルしたで賞/林崎漁協（森本明美）・ズッコけたで賞/兵庫漁協（糸

～神戸新聞 イイミミ欄から～

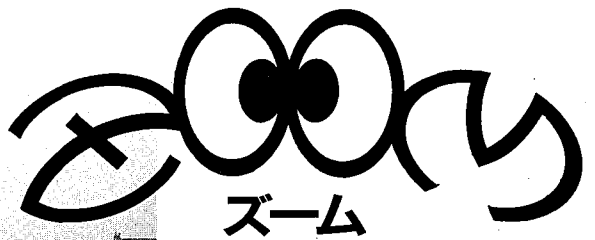
◆海に「み」を放れとは 袋を見つけた船頭に「持  
15日、息子たちと談路 って帰ってもちたら困  
へ釣りに行ったんです。 るやないか。なんで海へ  
釣りに行ったんです。 放らんかったんや」って  
くれ、釣果もまあまあ。 しかられて。一回口を  
「み」を放れ、船頭が ぐへり、釣歴40年  
「み」を放れ、船頭が ぐへり、釣歴40年  
「み」を放れ、船頭が ぐへり、釣歴40年  
「み」を放れ、船頭が ぐへり、釣歴40年

1996年9月19日付の神戸新聞夕刊「イイミミ」欄に掲載された記事です。該当の釣り船は漁業者では無いと思いますが、万一その場合は「漁業界の恥」ともなる話して、嚴重に反省して貰わねばなりません…。新聞社の了解を得て転載しました。



橋本（南淡漁協）菅（丸山漁協）両氏の名司会。中央は優秀賞の門脇さん。

谷敏子・糸谷千代子）・イカったで賞/一宮町漁協（大谷京子）・アジがあったで賞/炬口漁協（成瀬知和）・カレイで賞/淡路町漁協（谷口むつみ）・柴山港漁協（宮本綾子・吉津美幸）



ズーム

# 第十七回近畿青年洋上大学に参加して

## ― 思い出の十三日間 ―

県漁連指導部指導課 石塚 朋文

一九九六年八月六日、  
五百余名の夢と希望を乗  
せた「ニューユーとぴあ  
(二万二千五百トン)」は、

四日市港を後に、十三日間の最初の寄港  
地である、中国天津港へと向かった。  
今年で十七回目を迎える近畿青年洋上  
大学は、福井県・徳島県を含む近畿二府  
七県の学生及び、リーダー・スタッ



雨の中での故宮見学

フが、中国・韓国を訪れる研修旅行であり、近畿を担う若者たちが、船という閉ざされた空間と国際社会という開かれた空間で、仲間、希望、そして「こころ」を見出すのがこの旅の目的である。  
三日間の洋上生活を過ごした後、中国天津港に入港。これまでの狭い空間からの解放感、そして乗船して初めて味わう旅情。故宮、天安門広場、そして万里の長城。その壮大さは想像を絶するものであった。その後、バスに乗り再び天津へ。中国青年との交流会ではその青年達の日本語の堪能さ、そして日本に対する関心度の高さには大変驚かされた。  
翌日、その中国青年に見送られ天津港を後に一路上海へ向かった。八月十一日、二日ぶりの船内生活。その夜は各府県ごとに様々な

万里の長城



催し物が繰り広げられる洋大祭が行われ、我々兵庫県団は「神戸サンバ」を披露した。

翌々日、八月十三日上海港に入港。午前中工場見学の後、汽車とバスに乗り継ぎ、ホームステイ先の無錫・華西村へ。ホームステイ先では、予想通り全く言葉は通じなかったが、一家の暖かい雰囲気、すぐに打ち解けることが出来た。又、食事から村の案内、さらには中国の歌まで披露して頂き、大変楽しい一日だった。

無錫駅頭にて



グループ発表

の夜、次の訪問先である韓国・釜山へ向かった。  
八月十五日、釜山港に入港。その後、慶州に移動し、日韓青年交流会が行われた。実はこの日八月十五日は、日本では終戦記念日、韓国においては独立記念日であり、反日感情が高まっているかと心配されたが、韓国青年は快く迎えてくれた。又、韓国は、人・建物・町並みと、いずれも日本と似ており、外国にいることを忘れさせるほどだった。  
韓国を後にした我々は、一路神戸港へ。帰国を明日に控えたこの日は「さよならパーティー」が行われ、長いようで短かった十三日間が幕を閉じた。日頃味わう事の出来ない貴重な体験、そして、その中生まれた新たな仲間。私にとって一生の思い出となる洋大だった。

『想うまま』

名前について考える

日本人の名字は約十万種ほど有ると言われている。一億余りの人がそのどれかを自分の姓として名乗っているのである。同音異字や同字異音も多く、時にはまごついたりする。発音の似たものも間違いの元で、電話の取り次ぎにも山内が山口になり村田が室田になったりする。電報文のように「朝日のア、いろはのイ…」などと説明を要する場合もでてくるようだ。我が父親の母は名前をシヲといったが、いつか戸籍簿でシヲと変えられてしまった。係りの転記ミスということだが、既に故人でもあり訂正しても意味がないとそのままにしている。朋子が明子になり淳子が敦子に変わったりするそうである。

小説を書く側でも名前には知恵を絞っているらしい。主人公の名がスラスラと出来た時には物語りもスムーズに展開していくという。池波正太郎の書いた「鬼平犯科帳」という小説は、江戸時代の盗賊と捕らえる側との攻防を描いて興味が深い。長いシリーズ物だから登場する盗っ人も多人数になる。その名前のつけ方が実に上手いので感心するのである。狐火の勇五郎／白子の菊右衛門／野槌の弥平など、いかに一癖ありそうで命名には苦労しているナと思うのである。

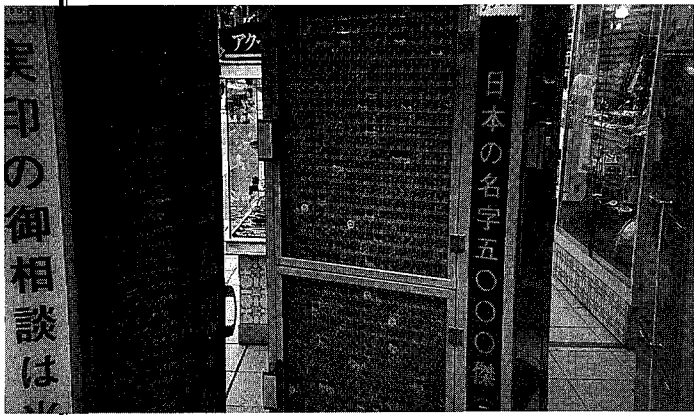
芸能人が芸名をつける場合、覚え易くて印象に残るようにと大層なまでに気を遣うそうだが、作家にも明治大正期には奇抜な名前の人が多い。漱石／鴉外／花袋など命名の由来だけで小咄になるような面白さである。先頃亡く

なった司馬遼太郎も、名前を聞くだけで数々の名作が思い浮かぶが、本名の福田定一サンではこうはいかない。ペンネームと言えばコラムの「遊方子」には、四方を遊び巡るという意味があり、UFOを掛けて「何処か遠くへ行きたい」という思い入れがあるという。本来は行脚僧の事らしい。歌手の中にはデビュー以来何度も改名を重ねている人が居るといふ。命名には苦労が絡むのである。

だろう。姓名判断に凝って運勢を気に掛けるゴ仁も多いが「悪魔」と命名したいと裁判沙汰を起こした人もいる。わが子に悪魔と名付ける親心は、常識ではとても理解できない。無分別な親としか思えないのである。名前は一生つきまとう、その人の看板である。一度掲げてしまうと途中では下ろせないし、余程の理由がない限り改名は許されない。子供に恨まれるような名前は避けるのが親の責任であり義務でもあるだろう。

名字や名前を所有する目的は、他人と区別することである。しかし、同じ名字を名乗る人がゴマンと居るのだから、同姓同名で困る事態が起きるのも当然のことだろう。大阪では田中実さん、東京で鈴木実さんが電話の番号調べで泣かされる名前だと電話局が発表していたが、百人以上もいるそうだから、当事者には笑い事ではない困った問題だろう。因に兵庫では田中・山本・吉田・中村・井上が五傑だった。こうした名字の家系では命名に充分な配慮が必要なのは言うまでもあるまい。色々と考えてきたが名前に関する話題これまで。ハイご退屈さま。

(MA生)  
次回はS A君が担当だがテーマは未定とか。何がでるか又楽しみ！



## クルマエビの放流効果について

栽培漁業を狭い水域のみで推進して

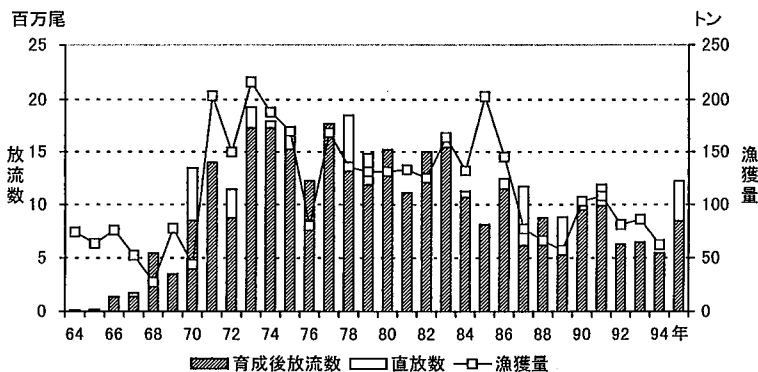
ても十分な効果が現れないので、より広域的な取り組みを行うことの重要性が高まっています。このような状況から、将来の栽培漁業の在り方を検討するため、播磨灘海域のクルマエビを対象として、周辺の一府五県が、国の補助事業により共同調査を実施することとなりました。

そこで、とりあえず公表されている数字をもとにして、兵庫県におけるクルマエビ放流事業の現状と問題点を検討しました。

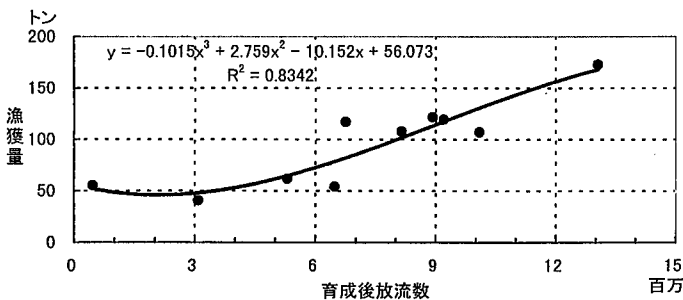
兵庫県のクルマエビ放流事業は一九六四年に始まり、三十年以上経過しています。放流数と漁獲量の推移を第1図に示しました。七十七年までは、放流数が増えれば漁獲量も増え、栽培漁業の教科書のような好成績でした。しかし、この後七八、八七、八九年は、放流数は前年と大差ないが、漁獲量のみ減少しています。さらに、八七年以降は大量放流前の水準にまで漁獲量が低下しています。このように放流数と漁獲量とが対応しない場合もあることから、最近では放流効果を疑問視する声も聞こえるようになりました。

さて公表されている放流数には二種類あります。中間育成された数と配布と同時放流された数です。しかし、より大きい数が好まれて、一般的には合計数のみで使用されています。前述の七八、八七、八九年について、中間育成後の放流数で漁獲量と比較してみると、漁獲量の減少は納得できるでしょう。中間育成は、放流後の生残率を高めるために行うのですから、中間育成後の放流数の方が漁獲量とより密接な関連があるのは当然のことかも知れません。

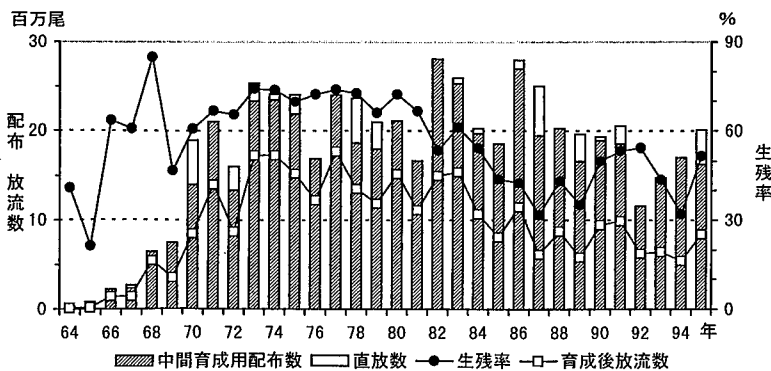
以上は、放流した年に全部が漁獲されると仮定しての話です。しかし、一部は越冬して翌年度にも漁獲されるはずで、いかえれば、ある年の漁獲量は前年放流されたものの一部とその年に放流されたものの一部です。この翌年に繰り越



第1図 放流数と漁獲量の経年変化



第2図 3年間毎の平均値による中間育成後の放流数と漁獲量との関係



第3図 配布数、放流数および中間育成時の生残率の経年変化

される割合は年によって当然異なるでしょう。従って、前年と翌年を含めて少なくとも三年間の動向をみて放流効果を判定する必要があります。そこで、三年間毎の放流数と漁獲量を平均して、第2図に示しました。放流数が五百万尾以下の場合の漁獲量は六十トンの横這いで放流効果は期待できません。しかし、放流数が八百万尾に増えれば漁獲量は百トンに、千二百万尾以上ならば百五十トン以上にと放流効果は大きくなっています。

次に配布数と放流数について第3図に示しました。近年配布数が減少し、また中間育成時の生残率も、急激に低下しています。この結果、近年は放流数が少な

すぎて放流効果がでていないと考えられます。放流成績の低下が始まった八二年は、県栽培センターが開所した年です。ヒラメ等の中間育成が本格化し、重点が魚類に移り、また、施設や作業面で重複等の問題が生じて、クルマエビの中間育成や放流事業への意欲や労力が手薄になっているのかも知れません。放流事業を安定的かつ効率的に継続するためには、国と同様に将来の栽培漁業の在り方について、再検討する時期がきているのではないのでしょうか。

ご意見をお聞かせいただければ幸いです。(資源部 主任研究員 中本幸一)



# 漁海況情報

兵庫県立水産試験場

平成8年9月

## 海況

△概況▽ 播磨灘では、表層水温が低下しはじめ、底層との温度差が急速に縮まっています。8月末に大量の降水があり、表層の塩分は平年並に戻ったものの、10m層や底層では、依然として平年よりやや高めめの値を示している。透明度は、灘北部沿岸で低く、中部や南部で高い状況が続いており、十五点平均値では七・四mと平年並の値となっている。栄養塩類濃度は、溶存態窒素、リン、珪酸とも平年並の値を示している。植物プランクトンでは、播磨灘北部沿岸域を中心に、小型珪藻が多く発生している。また八月に赤潮を形成した渦鞭毛藻キムノダイニウム・ミキモトイは、播磨灘全域の表層で、海水一ミリリットルあたり数細胞程度の密度にまで減少している。

△水温▽ 播磨灘表層の十五点平均値は二十六・五℃と、先月よりも低下し、平年並となっている。一方、10m層及び底層では、先月より二・三℃上昇して、平年並からやや高めの値となっており、表層と底層の温度差はほとんどみられなくなった。大阪湾及び紀伊水道北部の8月の水温は、平年に比べ高めであった。

△プランクトン▽ 播磨灘北部沿岸では、ニッチアやスケレトナを主体とする小型珪藻がかなり多く発生している。

△栄養塩▽ 八月末の豪雨の影響からか、加古川河口域で濃度の高いところが認められるが、小型珪藻による栄養塩類の取り込みも大きく、灘十五点平均値としては、平年並の値となっている。

## 漁況

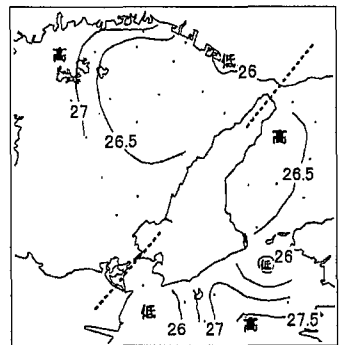
△小型底曳網▽ 明石海峡周辺を主漁場とする小型底曳網(ちん漕)では、マダコ、シヤコ、マコガレイが主に漁獲されている。紀伊水道北部では、引き続き小エビ類が主に漁獲されており、イボダイも漁獲されている。

△一本釣・曳縄釣▽ 明石海峡及びその周辺海域では、引き続きアマジ、タチウオ等が漁獲され、ハマチが漁獲された。紀伊水道北部では、マアジ、タチウオ、マダイ、クロダイ等が漁獲されている。

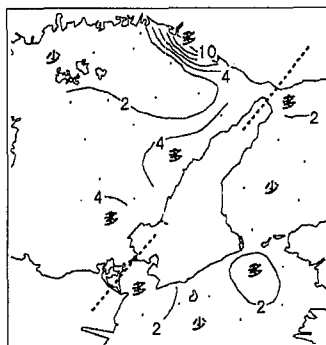
△船曳網▽ しらすの春。夏魚は大阪湾漁場では昨年をかなり上回った様であるが、播磨灘漁場では昨年並みであった。

△カタクチイワシ卵・稚仔▽ 卵は、全域に出現しているが、大阪湾海域のみ平年を上回っている。

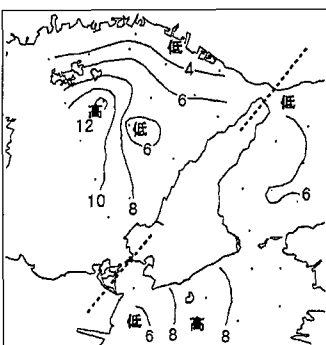
水温(表層水)



窒素濃度(表層水、μgatl/l)



透明度(m)



水温、窒素濃度および透明度の水平分布(大阪湾および紀伊水道のデータは平成八年八月二十・二十一日調査分)

## 海区漁業調整委員会だより

八月二十六日  
第二百二十九回兵庫県瀬戸内海海区漁業調整委員会を兵庫県中央労働センターで開催

一、会長並びに副会長の選出について協議の結果、会長に兵庫県漁業協同組合連合会長の小川委員、副会長に林崎漁業協同組合長の石井委員が選出された。

二、瀬戸内海連合海区漁業調整委員会委員の選出について協議の結果、小川会長が瀬戸内海連合海区漁業調整委員会委員に選出された。

三、岡山・兵庫県瀬戸内海連合海区漁業調整委員会委員の選出について協議の結果、小川会長、石井副会長、青波浦漁業協同組合長の風委員、

坊勢漁業協同組合長の桂委員、家島漁業協同組合長の中村委員が岡山・兵庫県瀬戸内海連合海区漁業調整委員会委員に選出された。

四、その他  
事務局より海区漁業調整委員会関係規程等について、概要説明を行った。

八月二十六日  
第三百八十七回但馬海区漁業調整委員会を兵庫県中央労働センター会議室で開催

一、会長及び副会長の選出について(議決)  
漁業法第八十五条第二項及び但馬海区漁業調整委員会規程第三条第二項の規定に基づき委員によって互選された結果、木下委員が会長に、片山委員が副会長に決定した。

二、その他  
海区漁業調整委員会の設置根拠規程等の説明がなされた後、委員会における配席の抽選が行われた。

## 兵庫県最低賃金改正のお知らせ

平成8年9月30日より  
日額 5,063円  
時間額 634円

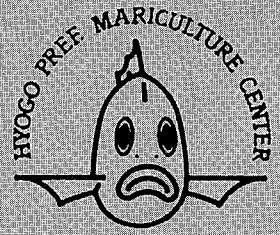
この最低賃金は、兵庫県内で使用される、パート・アルバイト等を含めたすべての労働者に適用されます。

但し、これより高い金額の産業別最低賃金が適用される業種は除きます。なお、産業別最低賃金については、兵庫地方最低賃金審議会が改正審議中です。

※産業別最低賃金の適用される業種は、繊維工業・鉄鋼業などの9業種が指定されています。

※詳しいことは

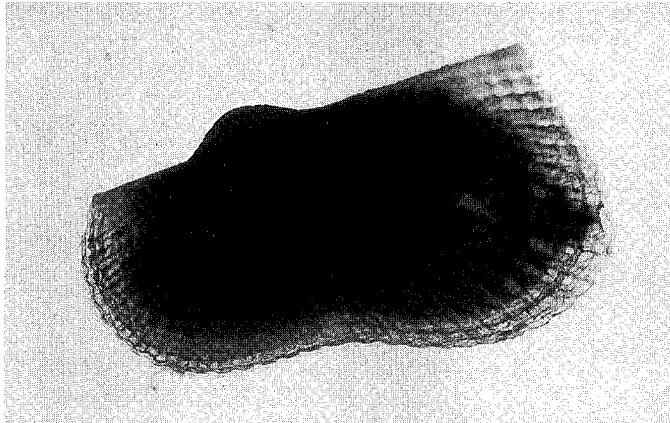
兵庫県労働基準局賃金課 (電話078-332-7020)  
又は、最寄りの労働基準監督署へお問い合わせ下さい。



# 栽培漁業センターです

# 96

◀アカガイの成熟  
浮遊仔貝



先日とある居酒屋で飲んでいた  
ときのことです。友人は酒蒸しに  
なったアサリの口から寄生してい  
る小さなカニを見つけて「貝に食  
べられてかわいそうなカニやな」  
と見当違いなことを言い始めまし  
た。私が真実を説明しているのを

彼は信じよ  
うともせず、  
何かのコー  
シャルで見  
たホタテ貝  
がヒトデか  
ら逃げる様  
を思いだし  
たよう  
「アサリは  
パタパタ泳  
ぎながらカ  
ニを捕って  
食べる」と  
自信満々に  
講釈を垂れ  
始めたので  
す。その場  
は店のおじ

さんまで友人側に付いてしまっ  
て私が押し切られた感じで一件落着  
(?)したわけですが、食材とし  
ては良く知られていても、その生  
態はほとんど知られてないん  
ね。あまりに悔しかったのでダ  
ラと書いてしまいました。今  
回は同じ二枚貝でもアサリの話で  
はなくって協会津名事業場で行っ  
ているアカガイ(もちろんパタパ  
タ泳ぎませんし、カニも食べませ  
ん)の種苗生産試験の状況から皆  
さんにお話ししましょう。アカガイ  
も大部分の二枚貝と同じように幼  
生の時から一貫して植物プランク  
トンなどを餌に成長します。津名  
事業場では例年どおり香川県の栗  
島漁協から百個の母貝を購入して  
六月二十七日から種苗生産を開始  
しました。アカガイは約二十日間  
の浮遊幼生の期間を経て、殻長  
が〇・三ミリの成熟浮遊仔貝になっ  
て茎物に着生して付着生活に入り  
ます。今年度の種苗生産試験は順  
調で、九月十日現在殻長一・二ミ  
リの付着稚貝を約三十五万個生産

することができました。

また当事業場ではクルマエビの  
種苗生産事業も継続して行って  
いて、第三回次目の生産分は現在全  
長七ミリの稚エビに成長し、約四  
百万尾飼育中です。

一方但馬の栽培漁業センターで  
はサザエの種苗生産が始まってい  
ます。地元但馬沿岸で採れたサザ  
エを養成して母貝に使用し、七月  
中旬に三回の採卵を行って、合計  
約千万粒の受精卵を得ました。前  
述のアカガイより短い約六十時間  
の浮遊幼生期を経て採苗した殻高  
一ミリの稚貝を、付着珪藻を餌料  
に用いて現在順調に飼育していま  
す。

最後に二見の栽培漁業センター  
で行ったオニオコゼの種苗生産結  
果ですが、八月十五日までに全長  
十二ミリの着底仔魚三万二千尾を  
取り上げました。現在網イケスの中  
で継続飼育していて全長二十ミ  
リサイズの稚魚に成長しています。

(兵裁協 楽 敦司)

造物の堰やダムは川を横切つて設置されるため、水の流れとともに生物の流れも妨げます。川と海を行き来する生物は川と海の連絡が断たれることにより大きな影響を受けています。それは、漁獲対象となる生物も同様です。

アユは、秋に川の下流の礫底に卵を生みます。卵から孵った稚魚は川をくだり、冬の河口近くの海で生活します。春になると川をのぼり始め、その後、主に中流で生活するようになります。このころに友釣りの対象となります。しかし、このように自然のままに生きているアユは非常に少なく、現在では、堰やダムなどに阻まれ川を上り下りできないのです。稚アユの放流をかなり行わないとアユを確保できなくなっています。

新しい水産資源として注目され始めているサクラマスも川と海を行き来します。サクラマスは、サケと同じく川で生まれ、海で育ち、

川へ産卵をするために帰ってきます。サケは、秋、産卵の直前に川に帰ってきますが、サクラマスはその名のごとく桜の咲くころに川に帰ってきます。サクラマスは比較的低い水温を好むため、夏は水温の低い上流で生活し秋には上流の砂礫底で産卵します。しかし、途中の堰やダムなどに阻まれ適した水温の場所までたどりつけないために一生を全うできるものは稀です。また、サケやアユと違い種苗生産、放流技術が確立されていないため、全国の河川で数が減少しています。彼らにとって、川が途切れているのは死活問題です。

最近、漁業者自らが魚付林や水源涵養林の名目で植林に積極的に取り組む動きがあります。また、河川改修の際に近自然型工法といって自然に近い状態を維持する工法を採用する動きもあります。川を理解し、多面的に利用する方法を探る時期にきています。

## 普及員だより

### 川と海を行き来する 魚たち

近年、川の役割を見直す動きがあります。これまでは安全と水資源の確保の容易さが河川を考える上で重要でした。しかし、川の役割はそれだけではありません。

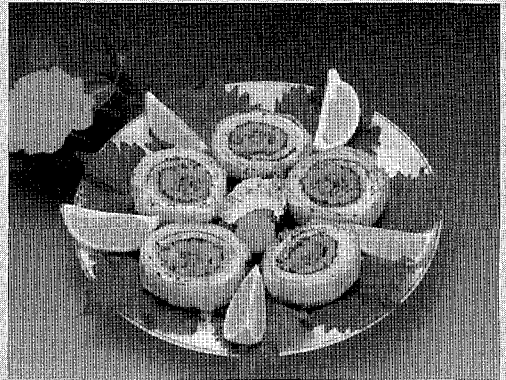
川は生物の生活の場でもあります。河川構

◆材料・分量◆

たちうお(中).....2尾  
 人参.....150g  
 三度豆.....150g  
 大根.....100g

味付のり.....全形1枚  
 土しょうが.....少々  
 小麦粉.....大さじ4  
 塩.....大さじ1  
 天ぷら粉  
 天つゆ

●たちうおの野菜巻き天ぷら●



淡路町漁協婦人部

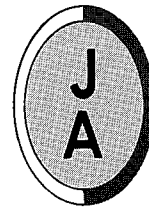
旬の美味い話 ④5

◆作り方◆

- ①たちうおは、三枚におろして薄塩をして三十分くらいおく。
- ②人参・三度豆は、たちうおの中に合わせて切り、塩ゆでする。
- ③たちうおの身の方を上にして小麦粉をまぶし、味付のりを敷く。その上に②の材料をのせて巻き、爪楊枝を差し込む。
- ④③の材料をまぶして、天ぷら粉につけて揚げる。



兵庫JCC通信  
 今、JA・生協では



「ヒロシマ虹のひろば」に全国の生協から約2,000人が集う

被爆・終戦から五十一周年を迎えた今年も、「ヒロシマ虹のひろば」(主催・日本生協連)を開催しました。

今年七月八日に、オランダのハーグにある世界法廷で「核兵器の威嚇および使用は一般的に国際法違反である」というはじめての判断が下されたことを受けて、次なるステップを確認しました。

冒頭、あいさつにたった日本生協連副会長の田辺氏は、「核兵器を違法とする国際法を求めて、三百万を超える署名を集めた。今回の世界法廷の勧告的意見は全ての場合に違法と言っていないので残念だが、画期的なことだ」と述べました。

日本生協連などの市民団体はこの「世界の最高裁判所」に「核兵器は国際法違反の武器だ」という勧告的意見を出させようという「世界法廷運動」を進めてきました。

食と農を考えるシンポジウム、消費者と生産者との現地交流会開く



幅広い年齢層の人達が、スイカ狩りを体験しました。

ひょうごの農業と食料を守る会は、八月三日農業会館で「食と農を考えるシンポジウム」を開催し、一般の消費者百五十名を招待しました。新食糧法のもと、本年六月から米の販売業者が登録制へ移行したことから、小売店舗の競争が激しくなっています。このシンポジウムでは、消費者の方々にも米の流通、消費をめぐる現状について理解し



「ヒロシマ虹のひろば」のようす (日本生協連主催 8/5)

この「ヒロシマ虹のひろば」には、全国の生協から約二千人の組合員・役員が、また、県内の生協からはコープこうべ、阪神医療生協、灘医療生協、尼崎医療生協、関西学院大学生協の組合員・役員らが参加しました。

ていたくために、「新食糧法下での日本のお米」をテーマに、明治大学農学部教授北出俊昭氏より講演がされました。

ほかにも、新食糧法が県下にとどのような影響を与えるか、行政、生協、JA、生産者、流通業者を交えてパネルディスカッションを行いました。

また、八月十日には「ともに喜びあえる交流活動」を実現していくために、消費者と生産者による現地交流会を、安永ゆり(姫飾地区生活改善グループ会長)さんの園場、および林田八幡神社研修場にて開催しました。

炎天下の中、互いに汗を流してスイカ狩りを行い、生協の「顔の見える関係づくり」が信頼を生み、地域の活性化につながることを確認しました。参加した消費者の皆さんは有意義な体験ができて、とても満足していました。

●サンテレビの

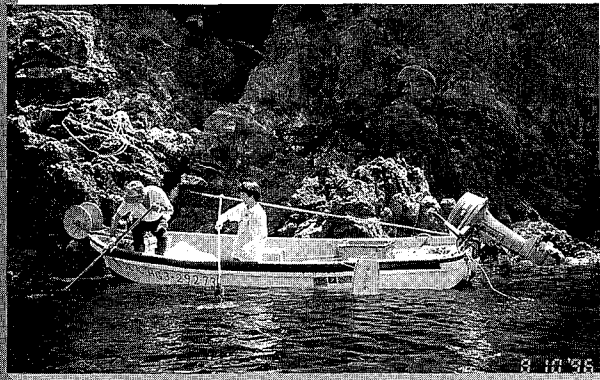
# あちこち海です



よく働く女性の姿



香住名物煮干しの天日乾燥



天草採りにチャレンジのリポーター

'96.9月1日放送  
 (第984回)

## ロケだより

但馬の水産加工  
 ～兵庫県・香住町・  
 浜坂町 他より～

但馬の城崎郡香住町だけでも約百件の加工屋さんがある水産加工。もともと水産加工品は、旬に沢山獲れて、味も旬だから美味しいし値段も安い、そんな魚介類を保存し、何時でも美味しく食べられる工夫として発展してきました。しかし、多様化するニーズに答えるため、日々：研鑽の結果、加工技術は発達、一本の竹輪：一匹のカレイやハタハタ：スルメイカの加工にも加工業者の方々は工夫を凝らしています。今や、水産加工食品は保存食と云うだけでなく、独自の味の枠を凝らした食品となったと言ってもよいでしょう。

水産加工品の種類には、新鮮な魚介類をそのまま：又、フライ用等に調理して冷凍する『冷凍品』、そのまま素干しにするスルメイカやイワシ・エビ・チリメンのように茹でて乾燥する：煮干し類、メザシ・サンマ・カレイ・ハタハタ等のように塩干しする『乾製品』、『薫製』、茹でて出荷する『茹で加工品』、魚の卵やワカメのように塩漬して保存する『塩蔵品』佃煮・みりん干しなどのように味を付けて乾燥調味した物や練製品がその分類に入る『調味加工品』そして塩辛や粕漬、糠漬、麴漬、味噌漬等の『発酵食品』『缶詰類』等に分類されます。但馬の水産加工は主に、一次加工を中心に発達してきました。その水産加工の技術の指導や開発を行なっているのが、香住町にある兵庫県立但馬水産事務所です。但馬水産事務所は、現在の水産加工品の問題点やニーズ、新商品の開発などの調査を主目的に、伝統の技術に新しい技術を開発：魚介類の付加価値を増大する目的で設立されました。試験研究室と利用加工部門では、加工業者や機械・製業・資材メーカー等からの依頼を受

けて、又、その協力のもと、加工技術や保存技術の開発試験やFA（機械）化の試験等を行なっています。魚介類はヌルとした粘液で覆われています。この粘液は魚介類の体を保護する役目をしていますが、この部分に微生物が付着しているため、腐敗や変質の原因となっています。水分の多い魚は皮等が傷むと変化しやすく腐敗しやすいのです。腐敗しやすいエラや内臓：多獲性漁獲物・沢山一度に漁獲される魚介類の出来るだけ迅速な処理の方法が美味しい水産加工品を製造する第一歩なのです。但馬水産事務所はこれまでも、水による解凍技術・茹で加工にも、水による解凍技術・温風や冷風の乾燥機等、色々な加工技術を開発、それが今、加工の現場で生かされています。さらに未開発の魚介類の加工の開発はもとより、今までの加工技術をさらに極め、より高度の技術の開発等に取り組んでいます。水産加工の発達には、この技術開発は勿論大切ですが、水産物加工に適した地理的条件や人的なものも忘れてはなりません。但馬の人々が一様に云うように、よく働く：働き手が多いのも土地柄でしょうか。六十・七十・八十代までの、それも女性が、何処の加工場にも大戦力となって働く姿が多く見られます。大正時代に盛んになった但馬の底びき網漁、多くは明治時代に創業した多くの老舗の加工屋さん。加工業の現場にも、四代・五代目と云う若者の姿も、後継者難と云われる現在ですが多く見られます。地場産業を守る：若者、それを支える加工技術のオーソリティとも云えるベテランの現場の人々、地域の活性・伝統を支えるのは一人の力だけでなく地域全体の力が大切なのです。

発行人 兵 漁業協同組合連合会

発行所

兵庫県漁業協同組合連合会  
 (財)兵庫県水産振興基金

〒652 神戸市兵庫区中之島2-2-1 FAX 671-6685

TEL 652-3424

定価80円(本体78円)